

事業番号	0	8	6
実施計画事業			
実施計画事業以外の事業	○		

令和元年度 事務事業評価シート

1. 事業の概要

事務事業名	講座開催事業					担当部	教育委員会事務局				
事業期間	平成元年度 ~ 令和2年度以降					担当課	東部市民センター				
新基本計画 (平成26年~平成30年)	基本施策	16	展開方向	1							
予算区分	一般会計	款	10 教育費	項	05	目	02	大	05	中	03

2. 実施状況

**【平成30年度実施状況】**  
 高齢者学級(ゆうゆう学級)、女性学級(つつじ学級)及び市民自ら講座を企画、運営する市民企画講座など、生きがいのある暮らし、住みよいまちづくり形成の一助となるよう講座を開催しました。  
 ○高齢者学級(ゆうゆう学級)1学級 20回開講、女性学級(つつじ学級)1学級 20回開講  
 ※開催場所:東部市民センター  
 ※講師は外部講師を招いて、企画(テーマ・学習内容等)・運営は市職員が行った。  
 ※受講料は高齢者学級・女性学級ともに年間3,000円  
 ○市民企画講座  
 市民企画講座は前期3講座、後期4講座開催し、1講座につき4~6回開催  
 前期(ワクワク パステルアート、「自力整体」~自分のできるボディワーク&エネルギーワーク~、国産小麦を使った手ごねパン教室~気軽に楽しく~)計16回  
 後期(小牧市内を流れる河川の歴史と文化を学ぶ、世界の料理紀行、世界でひとつのコサージュを作ろう、瞑想をはじめよう)計19回  
 ※開催場所:東部市民センター  
 ※外部講師を招いて実施した  
 ※受講料は受講者数により変動するが、1回あたり150円~400円  
 ○その他の講座  
 短期講座(30代からのマネープラン、親子でアイスクリーム&デコレーションサンド作り、職人直伝!練り切り和菓子を作ろう、保護者のためのネットモラル塾~知っておこう!考えよう!家庭で防げるインターネットのトラブル~、女性のための更年期トリセツ講座)計5回  
 ※開催場所:東部市民センター  
 ※外部講師を招いて企画・運営は市職員が行った。  
 ※受講料は合同講座など県の講師派遣事業は無料とし、それ以外の講座は200円~400円

事業費	項目	単位等	H27	H28	H29	H30	R1	
			直接経費	財源	千円	485	135	110
	一般財源	千円	0	0	0	0		
	国・県支出金	千円	578	483	473	473		
	その他	千円						
	計(A)	千円	1,063	618	583	696		
	対前年比	%	-	58.1%	94.3%	119.4%		
	(当初)予算額	千円	1,396	1,048	1,072	1,070	1,048	
人件費	正職員	人	0.4	0.4	0.4	0.4		
	正職員(平均人件費)	千円	2,994	2,994	2,994	2,994		
	その他職員	人	0	0	0	0		
	その他職員(時給×年間時間)	千円	0	0	0	0		
	計(B)	千円	2,994	2,994	2,994	2,994		
事業費合計(C=A+B)		千円	4,057	3,612	3,577	3,690		
指標	成果指標	受講者数(市民企画講座)	目標	250	250	250	250	200
		実績	284	196	182	136		
	受講者数(高齢者・女性学級)	目標	100	100	100	100	100	
		実績	100	100	97	100		
	活動指標	開催数(市民企画講座)	目標	8	8	8	8	8
			実績	8	8	8	7	
		開催数(高齢者・女性学級)	目標	2	2	2	2	2
			実績	2	2	2	2	
@事業費	受益者数(a)(各種講座の受講者数)	人	419	352	357	293		
	受益者あたり事業費(b=C/a)	円	9,684	10,263	10,021	12,596		

診断結果	改善点は見られない	改善点が若干見られる	○	大いに改善すべき
	<p>○市民企画講座の受講者数は目標値を下回ったが、終了時のアンケート結果においては、各講座・学級について概ね好評であった。また市民企画講座を終了した受講生による自主活動グループも発足した。</p> <p>○市民企画講座の受講者数は減少傾向にあるが、講師が講習可能な人数を定員としており、近年、その定員数が減少傾向にあるためであり、開講を予定した講座への応募状況は概ね定員を超えて抽選を実施している。</p> <p>○短期講座の受講者数は前年度より減少したものの、例年と同水準を維持している。</p> <p>○アンケート結果等を参考に講座内容を検討し実施しているが、講座の内容による応募者数の偏りが見られる。また、ヨガ等の健康づくりを意識した講座は応募者数が多いものの、受講者数の上限が比較的少ないため、希望する講座を受講できない状況であることも課題である。</p> <p>○子育て世代などが参加しやすいよう託児つき講座を実施した。</p>			

4. 総合評価

事業の方向性	維持	事業のボリュームを現状規模で維持すべきもの			
削減額・対象	事務事業評価による額	千円	予算区分	節	節
評価結果	<p>○社会教育法・公民館としての意義を守り、生涯学習の拠点としての役割を発展させ、住民の自主的な活動を育成し支援していくため、今後も事業を継続していく必要がある。</p> <p>○住民の主体的な活動を支援し、また、講座等の充実を図り、住民が学習の成果を発揮することにより住民同士のつながりを深め、広げることを推進する。</p> <p>○市民企画講座は、今後は、講師の協力を得ながら受講定員を拡大できるように努めます。</p> <p>○短期講座は、他の講座とは異なり、小学生の親子を対象に土曜、日曜に開催している。今後は、託児を活用する等、より受講しやすい環境を整えていきたいと思います。</p>				